

税への感謝と恩返し

上三川町立本郷中学校3年 村上 舞桜

税と聞いてみなさんは何を思い浮かべるだろうか。私は真っ先に「増税」という言葉を思い浮かべた。近年、ニュースでは「税金が高い」「増税ばかりで嫌だ」などのネガティブな声がよく聞かれる。私もこのような意見に賛同するうちの一人であった。しかし、学校で受けた租税教室が、私の「税に対する印象」をがらりと変えた。

租税教室の中で特に衝撃的だったのが「私たちは税に一生お世話になる」という言葉である。私の中の「税」の印象は「納める」ことの方が圧倒的に強かった。例えば、私たち中学生も買い物をすれば「消費税」を納める。大人になれば、「所得税」や「固定資産税」「自動車税」「住民税」など数十種類の税を納めなければならないのだ。一方で、私たちはどのような場面で「税」にお世話になっているのか、私はほとんど知らなかった。そこで、税が何に使われているのかを調べてみると、驚くべき事実が分かった。それは、私たちは様々なところで税に支えられているということだ。私たちは、税があるからこそ無償で学校に行くことができる。小、中学校は全て税を使ってつくられているうえ、私たちが使っている「教科書」も税によって無償で提供されているのである。また、私が住む上三川町では十八歳まで医療費が無料だ。これも、税でまかなわれている。税によって支えられているのは子どもだけではない。誰もが利用する「道路」や「信号機」「図書館」「公園」「町役場」なども全て税が使われているのだ。さらに、「警察署」や「消防署」にも税が使われ、緊急の時にも無償でサービスを受けることができる。そして、高齢者は「年金」という面でも税に支えられている。

このように税は教育、交通、医療、社会保障など様々な場面で役立てられ、私たちを生涯支えている。ネガティブな印象を持ってしまいがちの「税」だが、私たちの身近な場所で大きな役割を担っているのだ。そして、もう一つ驚いたことがある。それは、日本よりも外国の方が税の負担が重いのに関わらず、不満は少ないということだ。この理由は、保障などが充実しているからである。これに対して、日本で不満が爆発しているのは、国民が、納めた税が何に使われているのか、理解していないからであると思う。これは、国が国民にはっきりと提示していないことも原因だ。そのため、国が税を何に使用しているのか、より鮮明に伝えるべきだ。そして、私たち国民は使い道を知ろうとするべきではないだろうか。

税は、一生を共に歩む大切なパートナーである。また、税は「納める」と「支えてもらう」の相互関係があってこそのものである。今の私は税に支えてもらうことが多い。だから、常に「感謝」の気持ちを持って過ごしたい。そして将来、様々な税を納め、普段支えてもらっていることに対する「恩返し」をしたい。